

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	児童期、青年期、そして、成人の利用者のライフステージに応じた支援やサポートについて常に新しい取り組みを行っています。
	内容	啓光学園は、10名の知的障害児と40名の知的障害者が暮らす入所の施設です。日中での活動と、サポートを通じて、充実した生活が送れる施設であることを目指しています。また、児童期、青年期、そして、成人の利用者の一人ひとりがより良い人生となるよう、ライフステージに応じた支援やサポートを行っています。地域のニーズに対する支援は、その時々、その状況によって大きく関わり方が変わってきます。そのため事業所は行政や関係機関と連携や協力体制が重要と考えて事業所内外で常に新しい取り組みを行っています。
2	タイトル	個人の意思を尊重し、利用者の人権を守る支援に取り組んでいます。
	内容	利用者の意思を尊重し権利を擁護した支援については、倫理綱領・行動規範・運営方針にも謳われており、更に権利擁護(虐待防止)委員会には主任・職員3名を置き、指針文書を職員に配布しています。委員会には家族と利用者の当事者部会も設置されており、一方に偏らないように努めています。毎月職員は権利擁護に関する「セルフチェックシート」を無記名で実施し、虐待防止委員会のチェックにより課題を注出し問題提起と改善を目指しています。個々の振り返り、反省と共に利用者の生活が快適に過ごせるよう支援に取り組んでいます。
3	タイトル	利用者の日常を笑顔にする支援を行っています。
	内容	利用者の日中活動は、身体状況や技量によって農作業や公園清掃、リサイクル品の収集、ボールペンの組み立てなど「リサイクル・園芸班」、「さくら作業所」、「和田作業室」の3部門に分かれて生活の充実を図るようにしています。また、買い物支援、音楽鑑賞、祭の参加、他施設との交流、旅行外出など利用者が笑顔でいられる暮らしの幅を広げる支援をしています。他所で生活できる環境や経済状況が整った利用者には、安全で安心して暮らせるように社会マナーや近隣との交流、他者との関わり方などを伝えて、利用者の一人立ちを願って支援しています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	業務の効率化のスピード感のある取り組みにさらに期待します。
	内容	事業所はここ数年、スピード感のある業務改革を進めています。現在、業務内容、勤務時間、勤務時間内の役割分担等、主任、班長を中心に改革を検討中です。周りを取り囲む福祉業界の環境は厳しいものがあります。人員不足、職員の業務負担増など課題は多くあると思われそうですが今後は労使協働で業務効率化プロジェクトを組み音声入力や動画、写真等を取り入れたIT化等で新しい事務業務のあり方や支援方法のあり方を検討して職場の働き方改革を含めた業務効率化の取り組みに期待します。
2	タイトル	業務マニュアルの情報量を整理し有効活用しやすい工夫を期待します。
	内容	業務マニュアルを作成し職員のサービス業務を明確にしています。定期的に支援の全職員へOJTを行い、周知するようにしています。日常支援の中で、不備や欠落事項が生じた場合は職員からの意見を反映して半期に1回、主任、班長が見直しを行っています。業務マニュアルには手引書やマニュアルが整理されていますが、見直しを赤字で訂正しても情報量が多いこともあり、支援に有効活用しやすい工夫を期待します。
3	タイトル	定期的な衛生状態や感染症対策が行われるよう期待します。
	内容	2F・3Fの洗面所には、食事の後に口腔ケアを行うための歯ブラシとコップ、歯磨き粉が準備され、利用者が自分で歯磨きできるようにしています。歯ブラシや日用品は利用者の各担当者が管理していますが、定期的な交換が行われていないなど、歯ブラシの毛先が反っているものもみられます。歯肉の損傷など出血や口腔内感染を起こさない様に、衛生管理の仕組みを見直し、定期的な日用品の点検をしていく事で、利用者が安心して暮らせるように期待します。